

星城懇話会

2007. 9

第4号

発行：星城懇話会事務局
〒460-0008
名古屋市中区栄 1-14-32
(名古屋石田学園法人本部内)
TEL052-221-8921
FAX052-203-5243

CONTENTS

》》事業報告

》》事業案内

》》学園生の活躍

》》お知らせ

事業報告

「名古屋をどり第60回記念公演」鑑賞会

—名古屋の秋の風物詩—



【はしりがねの女】

9月11日、中日劇場において星城懇話会役員 西川右近さんの西川流「第60回記念“名古屋をどり”」が開催され、会員の方々に鑑賞していただきました。“名古屋をどり”は日本舞踊では、異例のロングラン公演となっており、毎年この時期に開催することから名古屋の秋の風物詩として親しまれています。

今年は、60回の記念公演とあって力の入れ方も格別、全国から西川流の踊り手が集結し名作が次々と繰り広げられました。長唄【祝六十路春乃壽(むそじをいわうはるのことぶき)】を皮切りに五つの演目が披露され、笛や鼓、三味線などの和楽器や長唄が創り出す古典芸能独特の雰囲気の中、西川右近さん、西川千雅さんを始めとする演者達の迫力のある踊りが披露されました。また最後の演目では、西川まさ子さん、歌舞伎役者の市川笑三郎さんによる舞踊劇【はしりがねの女】が上演され、盛んな拍手を浴びていました。



日本舞踊“西川流”名古屋をどりは、毎年9月上旬に開催され、秋の恒例行事として親しまれています。(写真：日本舞踊西川流提供)

「名古屋をどり第60回記念公演」鑑賞会

—みどころ解説と舞台裏見学会—



見学会(解説は西川千雅師範)

特別企画として、日本舞踊 西川流 西川千雅(カズマサ)師範による“みどころ解説と舞台裏見学会”を開催しました。

西川師範も出番に備え仕度の真最中、顔にはおしろいを塗った姿で解説をしていただきました。古典芸能独特の顔に施す真っ白な下地と目張りと呼ばれる赤い化粧は、昔の芝居小屋が薄暗く、演者を浮き立たせるための工夫が今も引継がれたもので、赤い色は、臉の裏の色を表現したものだそうです。

衣装は、ニクと言われる座布団のようなものが着物の下についており、着物を着るといより、布団に包まるといった表現があてはまりそうな分厚いものでした。また、体の細い演者に、さらにニクをつけて体のラインを調整したり、帯は目立つように大きいものを使用するな

ど、ここにも綺麗に見せるための工夫が見られます。

かつらは、一人一人の頭に合せ、台金という金属製の土台に人毛で作られていて、人毛は日本では手に入らないため、中国の長髪を習慣としている部族から購入しているとのことでした。ずっしりと重いかつらと衣装をつけての演技はかなりの運動量になることが分かりました。楽屋での解説を終え、舞台裏のセリや舞台袖など演者やスタッフしか通れない場所を次々と見て回り、一つ一つに感心させられながら鑑賞会の席へ移動。その後の華やかな舞台を見ながらその裏側にある苦労や芸の過酷さが分かり、鑑賞する面白味が増した貴重な機会となりました。

「ナゴヤドームで観る早慶野球戦」

—ハンカチ効果で2万8千人—

8月23日、ナゴヤドームで開催された第12回オール早慶野球戦を、会員の方々に楽しんでいただきました。試合は、秋季リーグを見据えた戦いとなり、終盤まで両者一歩も譲らない投手戦となりましたが、終盤8回に一挙4点を入れた全慶大が4-1で全早大に勝利しました。当日は、ハンカチ王子を一目見ようと2万8千人がドームに来場。期待されたハンカチ王子こと斎藤投手の登板は見送られましたが、インニングの合間の練習では、グラウンドに姿を見せ、一塁側の観客がスタンド最前列まで殺到する一幕もあり、球場は歓声に包まれていました。今回は、自由観戦というスタイルで事業を企画しました。会社の皆さんやお友達、ご家族など様々な形で参加していただいたことは、星城懇話会を楽しんでいただく一つの魅力がプラスできた事業となりました。



オール早慶戦大観衆のスタンド(ナゴヤドーム)

—全早大応援で木村さん(星城懇話会会員)大活躍—



度々オーロラビジョンに映し出された木村さんの勇姿

早慶野球戦のもう一つの華、応援合戦。伝統ある応援は、両校のOB、OGならずとも一度は耳にしたことのあるフレーズやメロディではないでしょうか。当日も両校の校歌や紺碧の空(早稲田大学応援歌)などが何度も流れ、ドームの雰囲気盛り上げていました。

そんな中、早稲田大学の応援部OBとして星城懇話会会員の木村 正さんが大活躍されていました。木村さんは、現役の応援部と共に応援団のリーダーとして指揮台

に立ち、後輩たちにエールを送り続けるその姿は、度々ドームのオーロラビジョンに写しだされていました。いつもの学生とは異なる観客層で、早稲田の応援を知らない人も木村さんや応援団の掛け声に合わせて段々と応援を覚えていき、回を重ねる毎に、メガホンの動きが一つになっていく様子は圧巻でした。

事業案内

今年の後半も星城懇話会事業にご期待ください。

今年も、昨年好評だった健康講座や講演会、日展鑑賞会などを開催していきます。今年は、星の城幼稚園・星城中学・高等学校のある豊明地区でも事業を開催します。暑かった夏もようやく落ち着き、スポーツや文化、芸術に最適の季節になってきました。会員の方々や地域の方々の健康維持や健康増進のバックアップや教育・文化面で楽しんでいただける講演会、芸術家の先生と触れ合う場を設けるなど、星城懇話会独自の企画を行っていきます。

第1弾は健康講座

テーマ「年齢に負けない体づくり(仮称)」時期 平成19年11月 場所 星城高等学校

今年も理学療法士の先生と一緒にみんなで楽しみながら体力づくり。先生の楽しい実技指導と講座終了後の相談(Q&A)コーナーで普段気になっている体のことや健康に関する正しい知識を身に付けましょう。

学園生の活躍

星城懇話会では、がんばる学園生を支援しています。



—高校総体で活躍(レスリングの浅田君、井上君)—

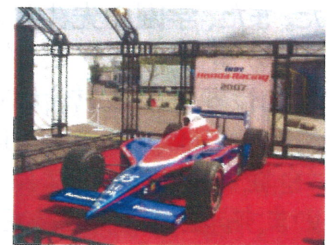
佐賀県で行われた全国高校総合体育大会(インターハイ)へ今年も星城高等学校から約50名の選手が出場しました。中でもレスリングの個人戦では、74kg級で井上 裕彰君が準優勝、96kg級で浅田 真司君が優勝という素晴らしい戦績を収めました。(インターハイの個人戦で星城高等学校の選手が優勝するのは19年ぶりのこと)浅田君は春の選抜大会に続き、全国大会二冠。左の「一本背負い」を武器に、一試合を除いて全てフォール勝ちを収めました。岡田洋一監督も見ていて安心できる試合運びに太鼓判を押しています。

準優勝の井上君は切れ味のいい「横捨て身」を中心にして決勝まで進出。これまで全国大会で勝ちがありませんでしたが、浅田君との練習が自信となり、今回の結果に結びつきました。二人の秋の国体での活躍は間違いなさそうです。

平成19年8月30日付 中日新聞

—松浦孝亮選手(星城高等学校第33回生)第16戦デトロイトで第5位完走—

時速380km/hrを超える世界最速のフォーミュラマシンによるレース、インディカー・シリーズにフル参戦している唯一の日本人ドライバーとして活躍する松浦孝亮選手。9月2日にデトロイトで行われたレースで5位に入る活躍を見せました。星城懇話会でも応援に駆けつけた第3戦の日本GPでは、途中リタイアという残念な結果となりましたが、今回は、難しいコースを粘り強い走り続け、荒れたレースを最後まで戦い抜き、5位でのゴールを手に入れました。今シーズン残りのレースに期待が掛かります。



松浦選手のレースマシン

—来年は星城高等学校出身のF1ドライバーが誕生か—

現在ウィリアムズ・チームのテストドライバーとして経験を積んでいる中嶋一貴選手(22歳 星城高等学校第38回生)。ここに来て来季ウィリアムズではなくトヨタ・チームからF1デビューするのでは、と報じられて注目を集めています。中嶋選手は、今年安定した実績を残しており、その若い才能がトヨタの興味を引いているようです。実現すれば、世界で活躍する星城の同窓生がまた一人誕生します。

監事交代のお知らせ

この度、当会監事の近畿日本ツーリスト(株)安彦誠一氏、日本国土開発(株)石井英二氏が社内異動の事情により新しく佐藤安男氏(近畿日本ツーリスト(株))と折下照雄氏(日本国土開発(株))にご就任いただきましたのでお知らせいたします。交代に伴い安彦氏、石井氏よりそれぞれ皆さんや星城懇話会に対するコメントを頂きました。

安彦 誠一氏より

平素は、会員の皆様方に大変お世話になっております。また、皆さんにはここまで会の運営に大変なご協力をいただきありがとうございました。

昨年設立のお話を伺い、星城懇話会という新しい試みに発足当初から参加できたことは、弊社にとっても私自身にとっても有意義なものだったと感じています。昨年9月の設立総会時に皆様方の前でご紹介をいただいてから一年が経とうとしていますが、その間、様々な懇話会事業に参加させていただきました。中でも特に印象深いのは、今年4月に開催された『松浦孝亮応援ツアー』でしょうか、世界的なカーレース、インディで活躍している星城高等学校の卒業生 松浦孝亮選手の応援ツアーの企画というチャンスをいただき、弊社としても今までにない新しい取り組みができ、大変感謝しております。

懇話会もまだ2年目ですが、今後も新しい事業をどんどんと展開していただきたいと思っています。社会的にもニーズが多様化し、また新しいものが次々に登場しています。懇話会もそうした流れの中で誕生し、まだまだ多くの可能性を秘めた会だと思えます。これからも会の発展を応援していきます。

〈皆様ご承知のとおり弊社は、旅行業として会員の皆様の御手伝いをさせていただくこともできますので、旅行あるいはご出張の際などは是非、お声掛けをしてください。必ずや会員の皆様のお力になれると思います。どうぞよろしく願います。〉

石井 英二氏より

皆さん、一年半という短い間でしたが、大変お世話になりました。この場をおかりして改めて皆様にお礼を申し上げたいと思います。

昨年発足した星城懇話会に発足当初より参加させていただき、様々な思い出が残っておりますが、設立総会時に行われた映画鑑賞会はとてもよかったと思います。鑑賞会の後の交流会も、学園の教職員と会員とが一同に介し、感動の余韻を残しつつ、皆さん雄弁になられた楽しいひと時でした。また、学園の先生による健康講座なども、星城らしさがうかがえ今後もさらに続けていただきたい事業の一つではないでしょうか。

今後の事業運営をしていく上で、なかなか難しいとは思いますが、講演会を充実してほしいと思っています。また、講師を囲んでの簡単な懇談の場があれば、さらに交流が深まるのではないのでしょうか。企業の立場としては、自社をPRできる場あるいは、他社との交流の場がもっと増えればいいと思います。星城懇話会から私自身は、離れることとなりましたが、新任の折下支店長へ、「星城懇話会は何よりも優先するように。」と引継いでおりますので、これからも社をあげて、積極的に参画していきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

星城懇話会事務局

名古屋市中央区栄1-14-32 (学校法人名古屋石田学園法人本部内)

TEL052-221-8921

FAX052-203-5243

担当:内藤